関わることを、おもしろく。

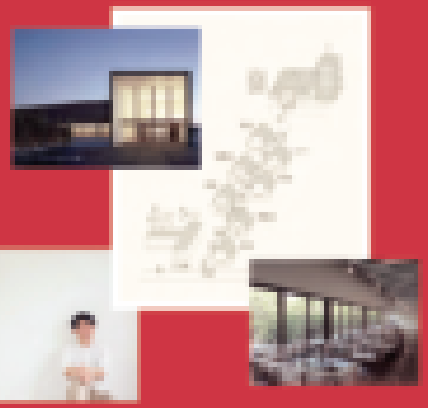
特別対談

「見立て」が生み出す、まちのつながり

岡 昇平 Shohei Oka
設計事務所建築家兼共同代表／仙台山岳会顧問

三浦ひろき Hiroki Miura
活動記録編集

今年に制定された「浦和市協働のまちづくり推進条例」には、市民の方々、団体、そして行政の役割を改めて確認するとともに、まちづくりへのさまざまな手段を共有しようというメッセージが込められています。「まちづくり」ってそもそもどういうもの？
今回は、春日部で活動拠点を設営されている岡昇平さんと、現在が編集された「まちぐるみ図鑑」の考え方を伺いながら、まちへの関わり方を考えて参ました。



～まちぐるみ図鑑とは？～

岡 昇平 Profile

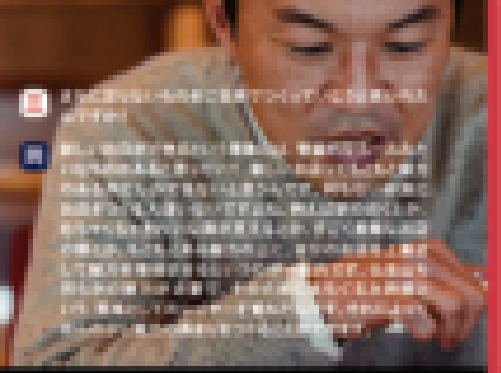
このまちでニヤニヤしながら暮らす

Q 「まちぐるみ図鑑」という考えをまるごと「活動」する人がいますが、活動拠点を共用のシェアスペースとされていますが、活動の中心的な考えはどんなものですか？

A まちぐるみ図鑑の発端は、住民としての個人的な考えからはじまっています。最初は、ちょっとニヤニヤ、ふふふと楽しんでいるようなものでしたが、まちの中を歩いていると、ずいぶん面白い人がいるなぁ、なんでこんなことしているのかなぁ、と思うことがあるんです。そこで、自分の中にある「なぜ？」を、まちの人に聞いてみたりすることで、まちの中を歩いて、人と話をすることで、まちの中にある「なぜ？」を解いていくことが、まちぐるみ図鑑の原点です。はじめは、自分自身のことからスタートしていくものです。

Q 「まちぐるみ図鑑」という考えをまるごと「活動」する人がいますが、活動拠点を共用のシェアスペースとされていますが、活動の中心的な考えはどんなものですか？

A 楽しい、知らないことを知ること、発見がある、ふふふと笑ってしまうような、楽しいことを、みんなと共有したいなぁ、と思っています。楽しいことを共有するには、まずは、一緒に歩いてみる、ということです。例えば、一緒に歩いてみる、ということを、まちぐるみ図鑑の活動として、まちの中を歩いて、人と話をする、ということを、まちぐるみ図鑑の活動として、まちの中を歩いて、人と話をすることで、まちの中にある「なぜ？」を解いていくことが、まちぐるみ図鑑の原点です。はじめは、自分自身のことからスタートしていくものです。



星座のように面で捉える

Q その後、まちの活動にいろいろな活動がでてきていますが、今日はキーとなる人、あるいはキーとなる活動場所はどんなものですか？

A 仙台山岳会とかもしかっていうような関係です。組織のようなものは存在しないようなものです。組織をもつことは、ものすごくエネルギーが必要になります。組織のようなものが発生しないように、ふわっとした、体験を共有することが、みんなが集まる場所でいきたいと思っています。

Q まちぐるみ図鑑というお話をするときは、お互いに、まったくちがう物語（まちづくり活動）が、コンセプトとして重ねあわされているようにみえます。

A そうですね。例えば、今春の春日部の中に、東武線に乗って、八木橋さん、佐藤さん、岡崎さんがいます。同じように、東武線沿いにもいろいろな活動が（笑）ある。僕は、仙台出身で、もともと山岳会活動（笑）をする。あるいは、あるいは、あるいは、